

オリンピックにやってきた。今日はその二日目。日本選手の活躍編のレポートである。

ソフトボール準決勝

オリンピックに来たものの、今、日本チームがどういう状況なのか全く掴めない。チケット売り場へ行っても、インフォメーションに行ってもあまり情報がないのである。あるのはセミファイナルはいついつ、ファイナルはいついつという情報。それだけでチケットを買うやつは少ないのに。

取りあえず朝早く目ざめてしまったので、野球のスタジアムがある Helliniko という会場へ。

その途中で会った日本人の女性に聞くと、ソフトボールチームは昨日中国に勝って、今日の9:30 から、再び中国と戦うらしい。そしてこれに勝ったら、今日の第三試合に再び登場するという。カナダ戦に負けているので、後がない。目指すは全勝である。



3400 人収容可能なソフトボールスタジアム。チケットは決勝まであまり気味だった。ギリシャでは人気がないみたい。

早速チケットを購入。ソフトの会場は、ラッキーにも野球と同じこの Helliniko にある。いざソフトボール会場へ。

会場にはたくさんの日本人が応援しに来ていた(一方、何故か中国の応援は少ない)。

近くに来た日本人と話しがはずんだ。彼はグローバルリーと言う会社の社員で、この会社に所属するマラソン選手の野口みずき選手を、会社のみんなど応援しにきたらしい。幾つかのグループに分かれて沿道に立つことになっていると。

因みに1週間のツアーが50万円で、その内の半額を会社が援助してくれている。

チケットに記載された座席が、まだ午前中にもかかわらず暑くてたまらなかったのと、中国チーム側だったので、彼と一緒に日本チーム側(一塁側)へ移動した。

何でもチケットの販売時には、この辺りの情報が画面に登場しないらしい。だいたいチケットが、Entry---Aisle---Row---Seat が記載され、席に誘導される。売る側はこのナンバーと値段が表示されるだけらしい。

だから観客は、途中からどんどんと移動を開始するのが通例の様だった。

試合開始 40 分前に、両チームのアップが始まる。宇津木監督のマシンガンノックで内野の選手は調整。

女性ながら、世のほとんどの男性を凌ぐ肩とコントロールを全員が持っていて、そのスピーディーな動きに驚いた。

正直に言うと、ソフトの方が野球よりもスピード感がある。

選手の一人一人の名がアナウンスされ、握手し、両チームそれぞれが円陣を組んだあとプレイボール。

先攻は日本。

中国の、背の高いポニーテールの女性がピッチャー。

時々投球した後に『モウホア!』と叫ぶ。日本語の『よいしょ!』みたいな感覚なのだろう。

スピードガンの表示は100キロ弱。それでもピッチャーとバッターの距離が短いので、ものすごく早く感じる。



試合直前の日本チーム。中央には宇津木監督が。なんかみんな格好良いのだ。

これまでスローピッチのソフトボールしかやった事がない私としては、ゲームの進め方、組立て方が全く違うので驚いた。

長打を狙わない選手、特に左打者は、『走りながら打つ』という事がある。

これは全く知らなかった。打席の後ろの方に立って、斜め前へ動きながら(走りながら)バットにボールを当てて、転がれば逃げ切ってセーフ、という具合である。

守備の方もそれを分かっている三塁手と一塁手は、もうバッターの直ぐ側にいる。一塁ベースでボールをキャッチするのはもっぱら二塁手の仕事だ。

また本格的なソフトボールっていうのは点の入らないゲームみたいだ。サッカーより点が入りにくい。

なるほどピッチャーがこんなにすごいなら、点も入らないはずだ。速い球に加え、チェンジアップと、どうも見るところドロップボールも投げているみたい。

さすが10数億人から選抜されただけあって、すごいピッチャーで、日本は一回の表あっさりとゼロ。そりゃー無理もない、と思っていた。

ところが、日本のピッチャーは上野由岐子(日立ルネサス)というエースが投球練習を開始。

もうびっくりした。中国の投手も速かったが、もう断然速いのである。

スピードガンは110キロ。長い腕から繰り出されるスピードボールは、もうあっという間にキャッチャーのミットに収まる。キャッチャーもあんな速い球がよく取れるなあという感じ。

聞くところによると、前日の予選リーグの中国戦で、何と五輪至上初の完全試合をやったのけたらしい。7回までに三振9個。外野に飛んだのは1度だけ、というすごい記録である。

さらに前々日もリリーフで出たらしい。連日の登板にも関わらず、すごい速い玉を投げる。

会社を辞めて放浪に出た事は、全く後悔の対象にはなっていないが、『ああ、放浪して本当に良かった』と体に電流が走るの、正直言って 2、3 週間に一度ぐらいである。この上野投手のスピードボールもその少ない 1 つであった。痺れるぜ。

上野投手を擁する日本チームは、しかしながら、何度何度も塁に出ながら、ここ一本が出ない。中国は前半、上野投手に完璧に押さえられながらも、後半、何とか上野投手のスピードボールをファールし始めた。

そりゃー、二日連続で対戦すれば、何とか目も慣れようというもの。というよりは、バットを振るタイミングだけ合わせているみたいだ。というよりは、バットを空中において逃げる、という選手もいる。会場もだんだんといやーな雰囲気になってきた。

しかし、中国チームが塁に出ると、上野投手はさらにすごいのである。ボールのスピードはこれまでの 110 キロからさらにアップして 114 キロまで。守備についてはもう安心して見ていられた。

ソフトボールのルールでは、7 回に決着がつかないと、8 回からはノーアウト 2 塁で試合が始まる。

8 回表、日本は 2 アウト 3 塁とし、宇津木麗華選手のタイムリーで 1 点獲得。

一方 8 回裏に中国は、1 アウト 3 塁とし、バッターがセンターヘライナーを放つ。当然タッチアップで 1 点となるどころだが、センターからはイチローのビームの様な好返球がキャッチャーに返り、間一髪でアウト。そしてゲームセット。日本の勝ち。因みにそのセンターは山田理恵選手で、日本チームの一番バッター。打率は 4 割を越える。この日の読売新聞にも『私はイチロー』という見出しで記事が載っていた。

いやあ、すごいゲームだった。

因みにチケットは 20 ユーロ(2700 円)。実に楽しめた。

野球

実はこの日、私のメインはこの野球で、前日にチケットを買っていた。

試合開始は 11:30 であったが、ソフトボールの緊迫した試合から目が離せず、まあいいか、という気分だった。

野球の会場とソフトの会場は同じ Helliniko という場所にあり、スタジアムも隣り合っている。良く見ると、野球の会場の一番上から、野球そっちのけで、ソフトを見ている応援団がいた。しきりと国旗を振っている。

はらはらしながらもソフトボールで勝利を収め、実に気分良く、12 時過ぎに野球の会場に入る。今日の相手はギリシャ。

どうせ見るならキューバ、アメリカ、韓国、台湾のどれかの対戦を見たかったのだが、ギリシャじゃあ、もしかしてもう 10 点ぐらい入っているかな、まあ、はらはらしっぱなしってのも体に悪いからな、と思いながら電光掲示板を見ると、3 回裏で何と 1 対 0 で日本が辛くも勝っているという状況。

以外にも、ギリシャの投手はちゃんと 140 キロ出ているし、バッターの振りもなかなか鋭いのだった。

どうも聞くところによると、アメリカのマイナーリーグには多くのギリシャ国籍の人がいて、その連中がチームを組んでいるらしい。英語の方が上手い選手もいるそうだ。

でも、そこはやはり日本選抜。

立浪に続き、高橋良伸もツーランを打ち、6 対 1 で勝利を収めた。

後から聞いた話だが、この日のゲームは地元ギリシャ戦だけあって、当日ではチケットが取れなかったそうである。

私は前日に買っておいたのだが、バックネット裏は何故かガラガラだった。

良いチケットはあまり販売されていないのかもしれない。ソフトボールもそうだった。

私の座っていた場所は、これまでの野球人生の

中で最も良い、バックネット裏 6 列目という席で、きっとテレビにも映っていたんじゃないかな。

仕事でオリンピックに来ていた大学の後輩とビールを飲みながら応援してました。

高橋良伸のデッドボールの音まで聞こえるベストな席だった。

因みにチケットはバックネット裏以外だと、まだ予選リーグなので 10 ユーロ(1350 円)である。

どうも、間違えて入り込んでしまったようだ。



試合後のインタビューに答える中畑監督代行。何と 1 メートルの至近距離で声まで聞こえた。

ソフトボール準決勝

ソフトボールの変則トーナメント方式であるページシステムの為に、日本(リーグ 3 位)と中国(リーグ 4 位)の準決勝で勝っても、もう一度準決勝があるのだった。

もう 1 つの準決勝で、アメリカ(リーグ 1 位)対オーストラリア(リーグ 2 位)で、オーストラリアが負けたのだが、そのオーストラリアと戦う事になった。

これに勝てばようやく決勝進出でアメリカと対戦、負ければ銅メダルが確定で終わり。

午前中、あんな試合を見たら、やはりこの試合も見たくなる。

試合開始は 17 時から。ところが女子マラソンのチケットを昨日買って、これは 18 時からである。会場もだいぶ離れている。

しかし今回のスタートはマラソンの発祥地マラトンから。スタートはそもそも見れない。ゴールは 20 時半と見てソフトボールを優先する事にした。

さすがに上野選手は登板せず。高山投手が投げる事に。

しかし結果は 3 対 0 で日本の負け。勝ちのゲームと違ってすごく悔しい。

たぶん、だぶんだけど日本のテレビや新聞では、『レフト前ヒットをレフトが後逸、ノーアウト 3 塁を許す』と出ている気がする。きっと本人は言い訳しないだろうけど、あのヒットはキャッチ直前にイレギュラーバウンドしたんだよなあ直ぐ目の前で見ていたのでそれが良く分かった。きっと彼女は今夜泣いている。

因みに、決勝進出を微塵も疑わなかった私は、既に昨日のうちから 30 ユーロ(4050 円)のチケットを買っていた。アメリカ対オーストラリアの決勝など見る気にもならなかったので、試合後チケット売り場に行くと、喜んでオーストラリア人が私のチケットを買ってくれた。今日はこれで残念ワインだ。

女子マラソン

ソフト会場を後にし、急いでマラソンのゴールの会場、Panathinaiko スタジアムに急ぐ。

アテネの恥、のろのろトラムに乗ったのが間違いだった。

ギュウギュウ詰めのために、ドアのセーフティが働き、自動的にドアが開いてしまう。トラムは出発できない。

だからドア付近の人は一歩下がる。すると奥へ詰めてくれたと勘違いしたホームの乗客が乗り込んで、さらにギュウギュウになるわ、さらにドアは開きっぱなしになるわで一向に前進しない。

いよいよ 20 時になってしまったのでタクシーに乗ることに。

しかしあと 30 分でゴールする予定の為、スタジアムはたいへんな交通規制。スタジアム 1 キロも手前でタクシーを降ろされた(腹立たしい事に、オリンピック期間は、タクシーはボーナスと称し 3 ユーロも余計に取りやがる)。

同じスタジアムに走る選手達と私。

テレビを見ている人は、同じタイミングで会場近くを必死で走っている日本人がいたなんて当然知らないんだろうな。

ビーチサンダルにリュックというハンディを抱えながらも、2 時間 12 分という好タイムで私は一足先にスタジアム入りした。

すると大型画面には野口選手の姿が。そして電



マラソンのゴールのスタジアム。とてもきれいな。入場料は 10 ユーロ(1350 円)。ただウイニングランが出来ない構造になっている。

光掲示板には、現在 1 位とでている。

そして 2 位との差は 14 秒。スタジアム入り口付近の最前列を、日本人だから、という理由で外国人達が座らせてくれる。固唾を飲んで見守る。

あと 3 キロ。差は 12 秒。

ヤバイ、これは確実にスタジアムの中でデッドヒートだぜ。

先導車がやってきた。その後ろには野口選手の姿が。そしてその直ぐ後にはエチオピア?の選手が続く。

ヤバイ、あの全身バネの様な黒い肉体は最後の最後にひっくり返すんじゃないか???

しかしメガホンで『ガンバレ!』と叫ぶ私の目の前で、野口選手は私にニコリ。

どうもまだスタジアム戦の体力を温存しているようである。

一方エチオピアの選手は一杯一杯。

勝利を確信した。

結局 12 秒差は縮まらず、

野口選手ゴーーーーーール。

いやぁ、またまた感動して体を電流が流れるのだった。

つづく



最後のコーナーを曲がり、ゴールまであと 100 メートルの野口選手。スタジアム全体が歓喜の渦。



74 才のおじい。暑い中、長袖長ズボン。全く汗をかかないみたい。で、すごい元気で働き者。